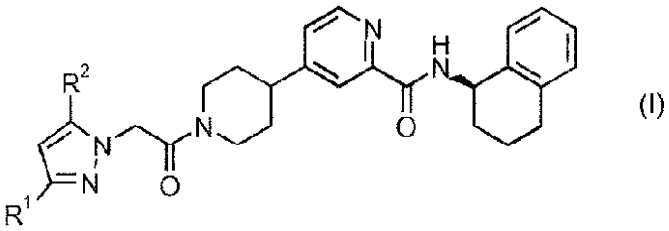
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成30年8月23日(2018.8.23)

【公表番号】特表2017-523185(P2017-523185A)
【公表日】平成29年8月17日(2017.8.17)
【年通号数】公開・登録公報2017-031
【出願番号】特願2017-504413(P2017-504413)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ　43/56　(2006.01)
Ａ０１Ｐ　 3/00　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　37/36　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　43/84　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 403/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　43/56　Ｂ
Ａ０１Ｐ　 3/00
Ａ０１Ｎ　37/36
Ａ０１Ｎ　43/84　１０１
Ｃ０７Ｄ 403/14

【手続補正書】
【提出日】平成30年7月12日(2018.7.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（Ａ）式Ｉの化合物
【化１】



(I)

（式中、R^1はジフルオロメチル又はトリフルオロメチルであり、且つ、R^2は、メチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、又はシクロプロピルである）；並びに
（Ｂ）下記からなる群から選択される少なくとも１種の化合物
（Ｂ１）ストロビルリン殺真菌剤、
（Ｂ２）アゾール殺真菌剤、
（Ｂ３）モルホリン殺真菌剤、
（Ｂ４）アニリノピリミジン殺真菌剤、
（Ｂ５）カルボキサミド殺真菌剤、
（Ｂ６）フェニルアミド殺真菌剤、
（Ｂ７）カルボン酸アミド殺真菌剤、
（Ｂ８）エトリジアゾール、フルアジナム、ベナラキシル－Ｍ、ドジシン、Ｎ’－（２，

５－ジメチル－４－フェノキシ－フェニル）－Ｎ－エチル－Ｎ－メチル－ホルムアミジン、Ｎ’－［４－（４，５－ジクロロ－チアゾール－２－イルオキシ）－２，５－ジメチル－フェニル］－Ｎ－エチル－Ｎ－メチル－ホルムアミジン、Ｎ’－［４－［［３－［（４－クロロフェニル）メチル］－１，２，４－チアジアゾール－５－イル］オキシ］－２，５－ジメチル－フェニル］－Ｎ－エチル－Ｎ－メチル－ホルムアミジン、エチリモール、３’－クロロ－２－メトキシ－Ｎ－［（３ＲＳ）－テトラヒドロ－２－オキソフラン－３－イル］アセト－２’，６’－キシリジド、ジチアノン、アウレオフンギン、ブラストサイジン－Ｓ、ビフェニル、クロロネブ、ジクロラン、ヘキサクロロベンゼン、キントゼン、テクナゼン、トルクロホス－メチル、メトラフェノン、２，６－ジクロロ－Ｎ－（４－トリフルオロメチルベンジル）－ベンズアミド、フルオピコリド、チオキシミド、フルスルファミド、ベノミル、カルベンダジム、カルベンダジム塩酸塩、クロルフェナゾール、フベリダゾール、チアベンダゾール、チオファネート－メチル、クロベンチアゾン、プロベナゾール、アシベンゾラル、ベトキサジン、ピリオフェノン、ピリベンカルブ、ブチルアミン、３－ヨード－２－プロピニルｎ－ブチルカルバマート、アイオドカルブ、イソプロパニルブチルカルバマート、ピカルブトラゾクス、ポリカーバメート、プロパモカルブ、トルプロカルブ、３－（ジフルオロメチル）－Ｎ－（７－フルオロ－１，１，３，３－テトラメチル－インダン－４－イル）－１－メチル－ピラゾール－４－カルボキサミド、ジクロシメット、Ｎ－［（５－クロロ－２－イソプロピル－フェニル）メチル］－Ｎ－シクロプロピル－３－（ジフルオロメチル）－５－フルオロ－１－メチル－ピラゾール－４－カルボキサミド、Ｎ－シクロプロピル－３－（ジフルオロメチル）－５－フルオロ－Ｎ－［（２－イソプロピルフェニル）メチル］－１－メチル－ピラゾール－４－カルボキサミド、カルプロパミド、クロロタロニル、オキシン銅、シモキサニル、フェナマクリル、シアゾファミド、フルチアニル、チシオフェン、クロゾリネート、イプロジオン、プロシミドン、ビンクロゾリン、ブピリメート、ジノクトン、ジノペントン、ジノブトン、ジノカップ、メプチルジノカップ、ジフェニルアミン、ホスダイフェン、２，６－ジメチル－［１，４］ジチイノ［２，３－ｃ：５，６－ｃ’］ジピロール－１，３，５，７（２Ｈ，６Ｈ）－テトラオン、エテム、フェルバム、マンコゼブ、マネブ、メタム、メチラム、メチラム－亜鉛、ナーバム、プロピネブ、チラム、ババム、ジネブ、ジラム、ジチオエーテル、イソプロチオラン、エタボキサム、ホセチル、ホセチル－Ａｌ、臭化メチル、ヨウ化メチル、メチルイソチオシアネート、シクラフラミド、バリダマイシン、ストレプトマイシン、（２ＲＳ）－２－ブロモ－２－（ブロモメチル）グルタロニトリル、ドジン、ドグアジン、グアザチン、イミノクタジン、イミノクタジン三酢酸塩、２，４－Ｄ、２，４－ＤＢ、カスガマイシン、ジメチリモール、フェンヘキサミド、ヒメキサゾール、硫酸イマザリル、フェンアミドン、ボルドー液、多硫化カルシウム、酢酸銅、炭酸銅、水酸化銅、ナフテン酸銅、オレイン酸銅、オキシ塩化銅、銅オキシキノレート、ケイ酸銅、硫酸銅、トール酸銅、酸化第一銅、硫黄、カルバリル、フタリド、ジングジュネズオ、オキサチアピプロリン、フルオロイミド、ＫＳＦ－１００２、ベンザモルフ、ジエトフェンカルブ、フェンチン酢酸塩、水酸化フェンチン、ドラゾキソロン、ファモキサドン、ｍ－フェニルフェノール、ｐ－フェニルフェノール、トリブロモフェノール、２－［２－［（７，８－ジフルオロ－２－メチル－３－キノリル）オキシ］－６－フルオロ－フェニル］プロパン－２－オール、２－［２－フルオロ－６－［（８－フルオロ－２－メチル－３－キノリル）オキシ］フェニル］プロパン－２－オール、シフルフェナミド、フルトラニル、メプロニル、イソフェタミド、フェンピクロニル、フルジオキソニル、ペンシクロン、エジフェンホス、イプロベンホス、ピラゾホス、リン酸、テクロフタラム、カプタホール、キャプタン、ジタリムホス、ＣＡＳ　５１７８７５－３４－２、トリホリン、オストール、１－メチルシクロプロペン、４－ＣＰＡ、ジクロルプロップ、ジメチピン、エンドタール、フルメトラリン、ホルクロルフェニュロン、ジベレリン酸、ジベレリン、ヒメキサゾール、マレイン酸ヒドラジド、ナフタレンアセトアミド、パクロブトラゾール、プロヘキサジオン、プロヘキサジオン－カルシウム、チジアズロン、トリブホス、トリネキサパック、ウニコナゾール、α－ナフタレン酢酸、ポリオキシンＤ、ＢＬＡＤ、キトサン、フェノキサ

ニル、フォルペット、３－（ジフルオロメチル）－Ｎ－メトキシ－１－メチル－Ｎ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）エチル］ピラゾール－４－カルボキサミド、ベンゾビンジフルピル、フェンピラザミン、ジクロメジン、ピリフェノックス、ジフルメトリム、フェナリモル、５－フルオロ－２－（ｐ－トリルメトキシ）ピリミジン－４－アミン、フェリムゾン、ジメタクロン、ピロキロン、プロキナジド、エトキシキン、キノキシフェン、４，４，５－トリフルオロ－３，３－ジメチル－１－（３－キノリル）イソキノリン、４，４－ジフルオロ－３，３－ジメチル－１－（３－キノリル）イソキノリン、５－フルオロ－３，３，４，４－テトラメチル－１－（３－キノリル）イソキノリン、９－フルオロ－２，２－ジメチル－５－（３－キノリル）－３Ｈ－１，４－ベンゾオキサゼピン、テブフロキン、オキソリン酸、キノメチオナート、（Ｅ）－Ｎ－メチル－２－［２－（２，５－ジメチルフェノキシメチル）フェニル］－２－メトキシ－イミノアセトアミド、エネストロブリン、フェナミストロビン、アミスルブロム、ジクロフルアニド、トリルフルアニド、ブタ－３－イニルＮ－［６－［［（Ｚ）－［（１－メチルテトラゾール－５－イル）－フェニル－メチレン］アミノ］オキシメチル］－２－ピリジル］カルバマート、ダゾメット、ベンチアゾール、シルチオファム、ゾキサミド、アニラジン、トリシクラゾール、（．＋－．）－シス－１－（４－クロロフェニル）－２－（１Ｈ－１，２，４－トリアゾール－１－イル）－シクロヘプタノール、１－（５－ブロモ－２－ピリジル）－２－（２，４－ジフルオロフェニル）－１，１－ジフルオロ－３－（１，２，４－トリアゾール－１－イル）プロパン－２－オール、２－（１－ｔｅｒｔ－ブチル）－１－（２－クロロフェニル）－３－（１，２，４－トリアゾール－１－イル）－プロパン－２－オール、ビテルタノール、クリンバゾール、ジメトコナゾール、トリアゾキシド、２－［［（１Ｒ，５Ｓ）－５－［（４－フルオロフェニル）メチル］－１－ヒドロキシ－２，２－ジメチル－シクロペンチル］メチル］－４Ｈ－１，２，４－トリアゾール－３－チオン、２－［［３－（２－クロロフェニル）－２－（２，４－ジフルオロフェニル）オキシラン－２－イル］メチル］－４Ｈ－１，２，４－トリアゾール－３－チオン、フルピコリド、及びアメトクトラジンからなる群から選択される殺真菌剤；
（Ｂ９）アシベンゾラル－Ｓ－メチル、クロルメコートクロリド、エテホン、イソチアニル、メピコートクロリド、チアジニル、及びトリネキサパック－エチルからなる群から選択される植物生長調整剤；
（Ｂ１０）アバメクチン、アセキノシル、アセタミプリド、アクリナトリン、アラニカルブ、アレスリン、α－シペルメトリン、アルファメトリン、アミドフルメト、アザジラクチン、アゾシクロチン、バチルス・フィルムス（Ｂａｃｉｌｌｕｓ　ｆｉｒｍｕｓ）、バチルス・チューリンゲンシス（Ｂａｃｉｌｌｕｓ　ｔｈｕｒｉｎｇｉｅｎｓｉｓ）、ベンスルタップ、ベンゾキシメート、ベータシフルトリン、ビフェナゼト、ビナパクリル、ビオアレスリン、ビオアレスリンｓ）－シクロペンチル異性体、ビオレスメトリン、ビフェントリン、ブロフルスリネート、ブロモホス－エチル、ブプロフェジン、カズサホス、カルバリル、カルボスルファン、カルタップ、クロラントラニリプロール、クロルフェナピル、クロマフェノジド、クロエトカルブ、クロチアニジン、シアントラニリプロール、シクラニリプロール、シクロプロトリン、シクロキサプリド、シエノピラフェン、シフルメトフェン、シフルトリン、シハロトリン、シペルメトリン、シフェノトリン、シロマジン、デルタメトリン、デメトン－ｓ－メチル、ジアフェンチウロン、ジアリホス、ジブロム、ジフロビダジン、ジフルベンズロン、ジナクチン、ジノカップ、ジノテフラン、ｄ－リモネン、エマメクチン、エムペンスリン、エスフェンバレレート、エチオン、エチプロール、エトフェンプロックス、エトキサゾール、ファムフール、フェナザキン、フェンフルスリン、フェノブカルブ、フェノキシカルブ、フェンプロパトリン、フェンピロキシメート、フェンバレレート、フィプロニル、フロメトキン、フロニカミド、フロウピラム、フルアクリピリム、フルアズロン、フルベンジアミド、フルシトリネート、フルエンスルホン、フルフェネリム、フルフェンプロックス、フルフィプロール、フルヘキサホン、フルメトリン、フルピラジフロン、フルバリネート、ホスチアゼート、ガンマ－シハロトリン、ゴッシプルア、グアジピル、ハロフェノジド、ハロフェンプロックス、ハーピン、ヘキ

シチアゾクス、ヒドラメチルノン、イミシアホス、イミダクロプリド、イミプロスリン、インドキサカルブ、ヨードメタン、イソチオエート、イベルメクチン、ラムダ－シハロトリン、レピメクチン、ルフェヌロン、メタフルミゾン、メタアルデヒド、メソミル、メトキシフェノジド、メトフルトリン、ミルベメクチン、ニクロサミド、ニテンピラム、オキサミル、パラチオン－エチル、パスツーリア・ニシザワエ（Ｐａｓｔｅｕｒｉａ　ｎｉｓｈｉｚａｗａｅ）、ｐ－シメン、ペルメトリン、フェノトリン、ホスホカルブ、ピペロニルブトキシド、ピリミカルブ、ピリミホス－エチル、核多角体病ウイルス、プラレトリン、プロフェノホス、プロフェノホス、プロパルギット、プロペタンホス、プロトリフェンビュート、ピフルブミド、ピメトロジン、ピラクロホス、ピラフルプロール、除虫菊、ピリダベン、ピリダリル、ピリフルキナゾン、ピリミジフェン、ピリプロール、ピリプロキシフェン、セラメクチン、シラフルオフェン、スピネトラム、スピノサド、スピロジクロフェン、スピロメシフェン、スピロテトラマト、スルホキサフロール、テブフェノジド、テブフェンピラド、テフルトリン、テルペノイド混合物、テルペノイド、テトラジホン、テトラメトリン、テトラナクチン、テトラニリプロール、シーター－シペルメトリン、チアクロプリド、チアメトキサム、チオジカルブ、トルフェンピラド、トランスフルトリン、トリクロルホン、トリフルメゾピリム、ゼーター－シペルメトリン、及びα－テルピネンからなる群から選択される殺虫剤；並びに

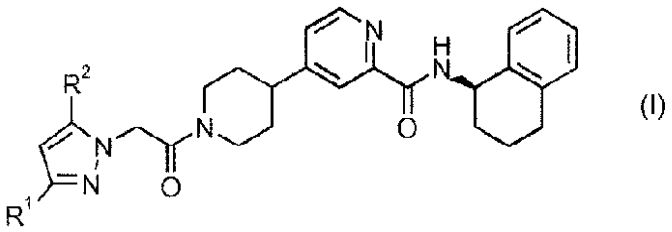
（Ｂ１１）グリホサート

を含む、植物病原体により起こる疾病を制御するのに好適な組成物。

【請求項２】

（Ａ）式Ｉの化合物

【化２】



(I)

（式中、R^1はジフルオロメチル又はトリフルオロメチルであり、且つ、R^2は、メチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、又はシクロプロピルである）；並びに

（Ｂ）下記からなる群から選択される少なくとも１種の化合物

アゾキシストロビン、ピラクロストロビン、及びトリフロキシストロビンからなる群から選択されるストロビルリン殺真菌剤；

シプロコナゾール、ジフェノコナゾール、エポキシコナゾール、プロピコナゾール、及びプロチオコナゾールからなる群から選択されるアゾール殺真菌剤；

シプロジニルから選択されるアニリノピリミジン殺真菌剤；

ビキサフェン、フルオピラム、フルキサピロキサド、イソピラザム、セダキサン、ソラテノール、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択されるカルボキサミド殺真菌剤、

メフェノキサム（メタラキシル－Ｍ）、及びメタラキシルから選択されるフェニルアミド殺真菌剤；

ベンチアバリカルブ、ジメトモルフ、フルモルフ、イプロバリカルブ、及びマンジプロパミド、ピリモルフ、及びバリフェナレートから選択されるカルボン酸アミド殺真菌剤；

アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルジオキソニル、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、マンコゼブ、及びプロパモカルブからなる群から選択される殺真菌剤

を含む、植物病原体により起こる疾病を制御するのに好適な組成物。

【請求項３】
成分Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、ビキサフェン、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、シプロコナゾール、シプロジニル、ジフェノコナゾール、ジメトモルフ、ジチアノン、エポキシコナゾール、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルジオキソニル、フルモルフ、フルピコリド、フルキサピロキサド、フルオピラム、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、プロパモカルブ、プロピコナゾール、プロチオコナゾール、ピラクロストロビン、ピリモルフ、セダキサン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、バリフェナレート、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、請求項１に記載の組成物。
【請求項４】
成分（Ａ）が、R^1がジフルオロメチルである式（Ｉ）の化合物である、請求項１～３のいずれか一項に記載の組成物。
【請求項５】
成分（Ａ）が、R^1がトリフルオロメチルである式（Ｉ）の化合物である、請求項１～３のいずれか一項に記載の組成物。
【請求項６】
成分（Ａ）が、R^1及びR^2がどちらもジフルオロメチルである式（Ｉ）の化合物である、請求項１～３のいずれか一項に記載の組成物。
【請求項７】
成分（Ａ）が、R_1がトリフルオロメチルであり、且つR^2がメチルである式（Ｉ）の化合物である、請求項１～３のいずれか一項に記載の組成物。
【請求項８】
成分（Ａ）が、１’－［２－（３－ジフルオロメチル－５－メチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサヒドロ－［４，４’］ビピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ（Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルモルフ、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、ピラクロストロビン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、請求項１に記載の組成物。
【請求項９】
成分（Ａ）が、１’－［２－（３，５－ビス－ジフルオロメチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサヒドロ－［４，４’］ビピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ（Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルモルフ、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、ピラクロストロビン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミ

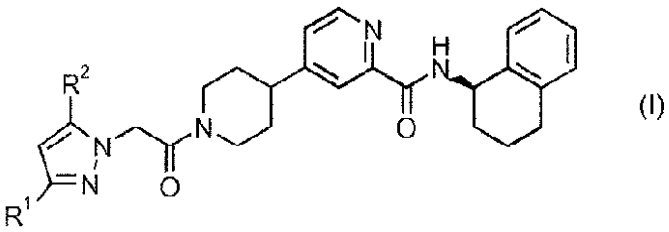
ドから選択される殺真菌剤である、請求項１に記載の組成物。
【請求項１０】
成分（Ａ）が、１’－［２－（５－シクロプロピル－３－ジフルオロメチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサ－ヒドロ－［４，４’］ビ－ピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ、（Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルモルフ、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、ピラクロストロビン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、請求項１に記載の組成物。
【請求項１１】
成分（Ａ）が、１’－［２－（５－シクロプロピル－３－ジフルオロメチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサ－ヒドロ－［４，４’］ビ－ピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ（Ｂ）が、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、クロロタロニル、シモキサニル、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルオピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、及びゾキサミドから選択される殺真菌剤である、請求項１に記載の組成物。
【請求項１２】
（Ａ）対（Ｂ）の重量比が、１００：１～１：１０００である、請求項１に記載の組成物。
【請求項１３】
植物病原体により起こる、有用な植物又はその種苗における疾病を制御する方法であって、前記有用な植物、その場所、又はその種苗に、請求項１に記載の組成物を施用することを含む方法。
【請求項１４】
果実及び野菜及びジャガイモにおけるアルテルナリア（Ａｌｔｅｒｎａｒｉａ）属菌；ストロベリー、トマト、ヒマワリ、しゅく穀類、野菜、及びブドウにおけるボトリティス・シネレア（Ｂｏｔｒｙｔｉｓ　ｃｉｎｅｒｅａ）；ブドウにおけるプラスモパラ・ビチコラ（Ｐｌａｓｍｏｐａｒａ　ｖｉｔｉｃｏｌａ）；ヒマワリにおけるプラスモパラ・ハルステディイ（Ｐｌａｓｍｏｐａｒａ　ｈａｌｓｔｅｄｉｉ）；インパチェンスにおけるプラスモパラ・オブデュセンス（Ｐｌａｓｍｏｐａｒａ　ｏｂｄｕｃｅｎｓ）；ウリ科の植物、コショウ、トマト、ナス、サヤ豆及びライ豆におけるフィトフトラ・カプシシ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｃａｐｓｉｃｉ）；タマネギにおけるペロンスポラ・デストラクター（Ｐｅｒｏｎｓｐｏｒａ　ｄｅｓｔｒｕｃｔｏｒ）及びフィトフトラ・ポリ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｐｏｒｒｉ）、ジャガイモ及びトマトにおけるフィトフトラ・インフェスタンス（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｉｎｆｅｓｔａｎｓ）；ジャガイモにおけるフィトフトラ・エリトロセプチカ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｅｒｙｔｈｒｏｓｅｐｔｉｃａ）；メロンにおけるフィトフトラ・メロニス（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｍｅｌｏｎｉｓ）；アスパラガスにおけるフィトフトラ・メガスペルマ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｍｅｇａｓｐｅｒｍａ）；キャベツにおけるフィトフトラ・ブラシカエ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｂｒａｓｓｉｃａｅ）；アブラナ科及びナス科作物におけるフィトフトラ・パラシチカ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｐａｒａｓｉｔｉｃａ）；マメ科植物の作物におけるペロノスポラ・ビシア（Ｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｖｉｃｉａ）；レタスにおけるブレミア・ラクツカエ（Ｂｒｅｍｉａ　ｌａｃｔｕｃａｅ）；キュウリ、ウリ科

の植物；カボチャ、ヘチマ及びメロンにおけるシュードペロノスポラ・キュベンシス（Ｐｓｅｕｄｏｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｃｕｂｅｎｓｉｓ）及びバラにおけるペロノスポラ・スパルサ（Ｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｓｐａｒｓａ）；ホウレンソウ及びビートにおけるアルブゴ（Ａｌｂｕｇｏ）属菌；ビート及びマメ科作物におけるアファノマイセス・エウテイケス（Ａｐｈａｎｏｍｙｃｅｓ　ｅｕｔｅｉｃｈｅｓ）、ジャガイモ及び野菜作物におけるピシウム（Ｐｙｔｈｉｕｍ）属菌、ジャガイモ及び野菜におけるリゾクトニア・ソラニ（Ｒｈｉｚｏｃｔｏｎｉａ　ｓｏｌａｎｉ）、ブドウにおけるウンシヌラ・ネカトル（Ｕｎｃｉｎｕｌａ　ｎｅｃａｔｏｒ）、ホモプシス・ビチコラ（Ｐｈｏｍｏｐｓｉｓ　ｖｉｔｉｃｏｌａ）、エルシノエ・アンペリナ（Ｅｌｓｉｎｏｅ　ａｍｐｅｌｉｎａ）、シュードスペジクラ・トラケイフィラ（Ｐｓｅｕｄｏｓｐｅｚｉｃｕｌａ　ｔｒａｃｈｅｉｆｉｌａ）、グロメレラ・シングラータ（Ｇｌｏｍｅｒｅｌｌａ　ｃｉｎｇｕｌａｔａ）、ギグナルディア・ビドウェリ（Ｇｕｉｇｎａｒｄｉａ　ｂｉｄｗｅｌｌｉ）、ウリ科の植物におけるクラドスポリウム・ククメリヌム（Ｃｌａｄｏｓｐｏｒｉｕｍ　ｃｕｃｕｍｅｒｉｎｕｍ）、ジジメラ・ブリオニアエ（Ｄｉｄｙｍｅｌｌａ　ｂｒｙｏｎｉａｅ）、スファエロテカ・フリギネア（Ｓｐｈａｅｒｏｔｈｅｃａ　ｆｕｌｉｇｉｎｅａ）及びグロメレラ・ラゲナリウム（Ｇｌｏｍｅｒｅｌｌａ　ｌａｇｅｎａｒｉｕｍ）、ウリ科及びナス科の作物におけるレベイルラ・タウリカ（Ｌｅｖｅｉｌｌｕｌａ　ｔａｕｒｉｃａ）、果実及び野菜におけるフザリウム（Ｆｕｓａｒｉｕｍ）属菌を制御する方法であって、前記植物に、その場所に、又はその種苗に、請求項１に記載の組成物を施用することを含む方法。

【請求項１５】

フィトフトラ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ）属菌、プラスモパラ・ビチコラ（Ｐｌａｓｍｏｐｏｒａ　ｖｉｔｉｃｏｌａ）、又はシュードペロノスポラ・キュベンシス（Ｐｓｅｕｄｏｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｃｕｂｅｎｓｉｓ）を制御する方法であって、手術又は療法によるヒトの体の治療方法及びヒトの体において実施される診断方法を除外し、有用な植物、その場所、又はその種苗に、式（Ｉ）の化合物

【化３】



（式中、R^1はジフルオロメチル又はトリフルオロメチルであり、且つ、R^2は、メチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、又はシクロプロピルである）を含む組成物を施用することを含む方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０１５２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０１５２】

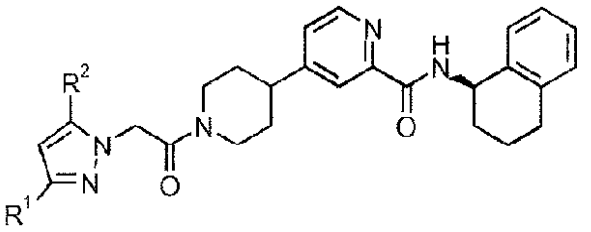
【表３２】

表B21

化合物A-1.2(ppm)	ホセチル-Al(ppm)	疾病制御%	期待される作用(コルビー)
0.000063		0	
0.000125		69	
0.000250		78	
	0.3125	8	
	0.6250	14	
	1.2500	14	
0.000063	0.3125	70	8
0.000063	0.6250	46	14
0.000063	1.2500	42	14
0.000125	0.6250	83	73
0.000250	1.2500	92	81

本発明の好ましい態様は、下記の通りである。

〔１〕（Ａ）式Ｉの化合物



(I)

（式中、R^1はジフルオロメチル又はトリフルオロメチルであり、且つ、R^2は、メチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、又はシクロプロピルである）；並びに

（Ｂ）下記からなる群から選択される少なくとも１種の化合物

（Ｂ１）ストロビルリン殺真菌剤、

（Ｂ２）アゾール殺真菌剤、

（Ｂ３）モルホリン殺真菌剤、

（Ｂ４）アニリノピリミジン殺真菌剤、

（Ｂ５）カルボキサミド殺真菌剤、

（Ｂ６）フェニルアミド殺真菌剤、

（Ｂ７）カルボン酸アミド殺真菌剤、

（Ｂ８）エトリジアゾール、フルアジナム、ベナラキシル－Ｍ、ドジシン、Ｎ’－（２，５－ジメチル－４－フェノキシ－フェニル）－Ｎ－エチル－Ｎ－メチル－ホルムアミジン、Ｎ’－［４－（４，５－ジクロロ－チアゾール－２－イルオキシ）－２，５－ジメチル－フェニル］－Ｎ－エチル－Ｎ－メチル－ホルムアミジン、Ｎ’－［４－［［３－［（４－クロロフェニル）メチル］－１，２，４－チアジアゾール－５－イル］オキシ］－２，５－ジメチル－フェニル］－Ｎ－エチル－Ｎ－メチル－ホルムアミジン、エチリモール、３’－クロロ－２－メトキシ－Ｎ－［（３ＲＳ）－テトラヒドロ－２－オキソフラン－３－イル］アセト－２’，６’－キシリジド、ジチアノン、アウレオフンギン、ブラストサイジン－Ｓ、ビフェニル、クロロネブ、ジクロラン、ヘキサクロロベンゼン、キントゼン、テクナゼン、トルクロホス－メチル、メトラフェノン、２，６－ジクロロ－Ｎ－（４－トリフルオロメチルベンジル）－ベンズアミド、フルオピコリド、チオキシミド、フルスルファミド、ベノミル、カルベンダジム、カルベンダジム塩酸塩、クロルフェナゾール、フベリダゾール、チアベンダゾール、チオファネート－メチル、クロベンチアゾン、プロベナゾール、アシベンゾラル、ベトキサジン、ピリオフェノン、ピリベンカルブ、ブチルアミン、３－ヨード－２－プロピニルｎ－ブチルカルバマート、アイオドカルブ、イソプ

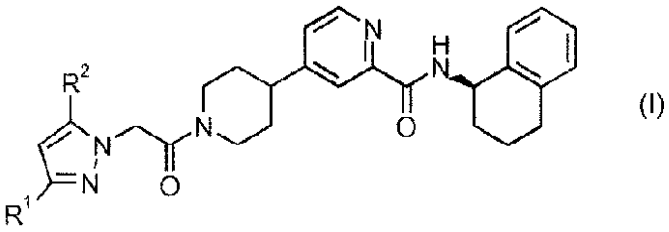
ロパニルブチルカルバマート、ピカルブトラゾクス、ポリカーバメート、プロパモカルブ、トルプロカルブ、３－（ジフルオロメチル）－Ｎ－（７－フルオロ－１，１，３，３－テトラメチル－インダン－４－イル）－１－メチル－ピラゾール－４－カルボキサミド、ジクロシメット、Ｎ－［（５－クロロ－２－イソプロピル－フェニル）メチル］－Ｎ－シクロプロピル－３－（ジフルオロメチル）－５－フルオロ－１－メチル－ピラゾール－４－カルボキサミド、Ｎ－シクロプロピル－３－（ジフルオロメチル）－５－フルオロ－Ｎ－［（２－イソプロピルフェニル）メチル］－１－メチル－ピラゾール－４－カルボキサミド、カルプロパミド、クロロタロニル、オキシン銅、シモキサニル、フェナマクリル、シアゾファミド、フルチアニル、チシオフェン、クロゾリネート、イプロジオン、プロシミドン、ビンクロゾリン、ブピリメート、ジノクトン、ジノペントン、ジノブトン、ジノカップ、メプチルジノカップ、ジフェニルアミン、ホスダイフェン、２，６－ジメチル－［１，４］ジチイノ［２，３－ｃ：５，６－ｃ’］ジピロール－１，３，５，７（２Ｈ，６Ｈ）－テトラオン、エテム、フェルバム、マンコゼブ、マネブ、メタム、メチラム、メチラム－亜鉛、ナーバム、プロピネブ、チラム、ババム、ジネブ、ジラム、ジチオエーテル、イソプロチオラン、エタボキサム、ホセチル、ホセチル－Ａｌ、臭化メチル、ヨウ化メチル、メチルイソチオシアネート、シクラフラミド、バリダマイシン、ストレプトマイシン、（２ＲＳ）－２－ブロモ－２－（ブロモメチル）グルタロニトリル、ドジン、ドグアジン、グアザチン、イミノクタジン、イミノクタジン三酢酸塩、２，４－Ｄ、２，４－ＤＢ、カスガマイシン、ジメチリモール、フェンヘキサミド、ヒメキサゾール、硫酸イマザリル、フェンアミドン、ボルドー液、多硫化カルシウム、酢酸銅、炭酸銅、水酸化銅、ナフテン酸銅、オレイン酸銅、オキシ塩化銅、銅オキシキノレート、ケイ酸銅、硫酸銅、トール酸銅、酸化第一銅、硫黄、カルバリル、フタリド、ジングジュネズオ、オキサチアピプロリン、フルオロイミド、ＫＳＦ－１００２、ベンザモルフ、ジエトフェンカルブ、フェンチン酢酸塩、水酸化フェンチン、ドラゾキソロン、ファモキサドン、ｍ－フェニルフェノール、ｐ－フェニルフェノール、トリブロモフェノール、２－［２－［（７，８－ジフルオロ－２－メチル－３－キノリル）オキシ］－６－フルオロ－フェニル］プロパン－２－オール、２－［２－フルオロ－６－［（８－フルオロ－２－メチル－３－キノリル）オキシ］フェニル］プロパン－２－オール、シフルフェナミド、フルトラニル、メプロニル、イソフェタミド、フェンピクロニル、フルジオキソニル、ペンシクロン、エジフェンホス、イプロベンホス、ピラゾホス、リン酸、テクロフタラム、カプタホール、キャプタン、ジタリムホス、ＣＡＳ　５１７８７５－３４－２、トリホリン、オストール、１－メチルシクロプロペン、４－ＣＰＡ、ジクロルプロップ、ジメチピン、エンドタール、フルメトラリン、ホルクロルフェニュロン、ジベレリン酸、ジベレリン、ヒメキサゾール、マレイン酸ヒドラジド、ナフタレンアセトアミド、パクロブトラゾール、プロヘキサジオン、プロヘキサジオン－カルシウム、チジアズロン、トリブホス、トリネキサパック、ウニコナゾール、α－ナフタレン酢酸、ポリオキシンＤ、ＢＬＡＤ、キトサン、フェノキサニル、フォルペット、３－（ジフルオロメチル）－Ｎ－メトキシ－１－メチル－Ｎ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）エチル］ピラゾール－４－カルボキサミド、ベンゾビンジフルピル、フェンピラザミン、ジクロメジン、ピリフェノックス、ジフルメトリム、フェナリモル、５－フルオロ－２－（ｐ－トリルメトキシ）ピリミジン－４－アミン、フェリムゾン、ジメタクロン、ピロキロン、プロキナジド、エトキシキン、キノキシフェン、４，４，５－トリフルオロ－３，３－ジメチル－１－（３－キノリル）イソキノリン、４，４－ジフルオロ－３，３－ジメチル－１－（３－キノリル）イソキノリン、５－フルオロ－３，３，４，４－テトラメチル－１－（３－キノリル）イソキノリン、９－フルオロ－２，２－ジメチル－５－（３－キノリル）－３Ｈ－１，４－ベンゾオキサゼピン、テブフロキン、オキソリン酸、キノメチオナート、（Ｅ）－Ｎ－メチル－２－［２－（２，５－ジメチルフェノキシメチル）フェニル］－２－メトキシ－イミノアセトアミド、エネストロブリン、フェナミストロビン、アミスルブロム、ジクロフルアニド、トリルフルアニド、ブタ－３－イニルＮ－［６－［［（Ｚ）－［（１－メチルテトラゾール－５－イル）－フェニル－メチレン］アミノ］オキシメチル］－２－ピリジル］カ

ルバマート、ダゾメット、ベンチアゾール、シルチオファム、ゾキサミド、アニラジン、トリシクラゾール、（．＋－．）－シス－１－（４－クロロフェニル）－２－（１Ｈ－１，２，４－トリアゾール－１－イル）－シクロヘプタノール、１－（５－ブロモ－２－ピリジル）－２－（２，４－ジフルオロフェニル）－１，１－ジフルオロ－３－（１，２，４－トリアゾール－１－イル）プロパン－２－オール、２－（１－ｔｅｒｔ－ブチル）－１－（２－クロロフェニル）－３－（１，２，４－トリアゾール－１－イル）－プロパン－２－オール、ビテルタノール、クリンバゾール、ジメトコナゾール、トリアゾキシド、２－［［（１Ｒ，５Ｓ）－５－［（４－フルオロフェニル）メチル］－１－ヒドロキシ－２，２－ジメチル－シクロペンチル］メチル］－４Ｈ－１，２，４－トリアゾール－３－チオン、２－［［３－（２－クロロフェニル）－２－（２，４－ジフルオロフェニル）オキシラン－２－イル］メチル］－４Ｈ－１，２，４－トリアゾール－３－チオン、フルピコリド、及びアメトクトラジンからなる群から選択される殺真菌剤；

（Ｂ９）アシベンゾラル－Ｓ－メチル、クロルメコートクロリド、エテホン、イソチアニル、メピコートクロリド、チアジニル、及びトリネキサパック－エチルからなる群から選択される植物生長調整剤；

（Ｂ１０）アバメクチン、アセキノシル、アセタミプリド、アクリナトリン、アラニカルブ、アレスリン、α－シペルメトリン、アルファメトリン、アミドフルメト、アザジラクチン、アゾシクロチン、バチルス・フィルムス（Ｂａｃｉｌｌｕｓ　ｆｉｒｍｕｓ）、バチルス・チューリンゲンシス（Ｂａｃｉｌｌｕｓ　ｔｈｕｒｉｎｇｉｅｎｓｉｓ）、ベンスルタップ、ベンゾキシメート、ベータシフルトリン、ビフェナゼト、ビナパクリル、ビオアレスリン、ビオアレスリンｓ）－シクロペンチル異性体、ビオレスメトリン、ビフェントリン、ブロフルスリネート、ブロモホス－エチル、ブプロフェジン、カズサホス、カルバリル、カルボスルファン、カルタップ、クロラントラニリプロール、クロルフェナピル、クロマフェノジド、クロエトカルブ、クロチアニジン、シアントラニリプロール、シクラニリプロール、シクロプロトリン、シクロキサプリド、シエノピラフェン、シフルメトフェン、シフルトリン、シハロトリン、シペルメトリン、シフェノトリン、シロマジン、デルタメトリン、デメトン－ｓ－メチル、ジアフェンチウロン、ジアリホス、ジブロム、ジフロビダジン、ジフルベンズロン、ジナクチン、ジノカップ、ジノテフラン、ｄ－リモネン、エマメクチン、エムペンスリン、エスフェンバレレート、エチオン、エチプロール、エトフェンプロックス、エトキサゾール、ファムフール、フェナザキン、フェンフルスリン、フェノブカルブ、フェノキシカルブ、フェンプロパトリン、フェンピロキシメート、フェンバレレート、フィプロニル、フロメトキン、フロニカミド、フロウピラム、フルアクリピリム、フルアズロン、フルベンジアミド、フルシトリネート、フルエンスルホン、フルフェネリム、フルフェンプロックス、フルフィプロール、フルヘキサホン、フルメトリン、フルピラジフロン、フルバリネート、ホスチアゼート、ガンマ－シハロトリン、ゴッシプルア、グアジピル、ハロフェノジド、ハロフェンプロックス、ハーピン、ヘキシチアゾクス、ヒドラメチルノン、イミシアホス、イミダクロプリド、イミプロスリン、インドキサカルブ、ヨードメタン、イソチオエート、イベルメクチン、ラムダ－シハロトリン、レピメクチン、ルフェヌロン、メタフルミゾン、メタアルデヒド、メソミル、メトキシフェノジド、メトフルトリン、ミルベメクチン、ニクロサミド、ニテンピラム、オキサミル、パラチオン－エチル、パスツーリア・ニシザワエ（Ｐａｓｔｅｕｒｉａ　ｎｉｓｈｉｚａｗａｅ）、ｐ－シメン、ペルメトリン、フェノトリン、ホスホカルブ、ピペロニルブトキシド、ピリミカルブ、ピリミホス－エチル、核多角体病ウイルス、プラレトリン、プロフェノホス、プロフェノホス、プロパルギット、プロペタンホス、プロトリフェンビュート、ピフルブミド、ピメトロジン、ピラクロホス、ピラフルプロール、除虫菊、ピリダベン、ピリダリル、ピリフルキナゾン、ピリミジフェン、ピリプロール、ピリプロキシフェン、セラメクチン、シラフルオフェン、スピネトラム、スピノサド、スピロジクロフェン、スピロメシフェン、スピロテトラマト、スルホキサフロール、テブフェノジド、テブフェンピラド、テフルトリン、テルペノイド混合物、テルペノイド、テトラジホン、テトラメトリン、テトラナクチン、テトラニリプロール、シーター－シペルメトリン、チア

クロプリド、チアメトキサム、チオジカルブ、トルフェンピラド、トランスフルトリン、トリクロルホン、トリフルメゾピリム、ゼーターシペルメトリン、及びα－テルピネンからなる群から選択される殺虫剤；並びに
（Ｂ１１）グリホサート
を含む、植物病原体により起こる疾病を制御するのに好適な組成物。
〔２〕（Ａ）式Ｉの化合物

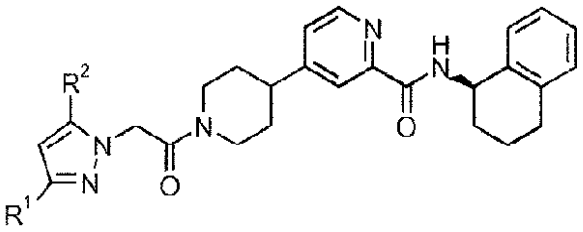


(I)

（式中、R^1はジフルオロメチル又はトリフルオロメチルであり、且つ、R^2は、メチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、又はシクロプロピルである）；並びに
（Ｂ）下記からなる群から選択される少なくとも１種の化合物
アゾキシストロビン、ピラクロストロビン、及びトリフロキシストロビンからなる群から選択されるストロビルリン殺真菌剤；
シプロコナゾール、ジフェノコナゾール、エポキシコナゾール、プロピコナゾール、及びプロチオコナゾールからなる群から選択されるアゾール殺真菌剤；
シプロジニルから選択されるアニリノピリミジン殺真菌剤；
ビキサフェン、フルオピラム、フルキサピロキサド、イソピラザム、セダキサン、ソラテノール、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択されるカルボキサミド殺真菌剤、
メフェノキサム（メタラキシル－Ｍ）、及びメタラキシルから選択されるフェニルアミド殺真菌剤；
ベンチアバリカルブ、ジメトモルフ、フルモルフ、イプロバリカルブ、及びマンジプロパミド、ピリモルフ、及びバリフェナレートから選択されるカルボン酸アミド殺真菌剤；
アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルジオキソニル、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、マンコゼブ、及びプロパモカルブからなる群から選択される殺真菌剤
を含む、植物病原体により起こる疾病を制御するのに好適な組成物。
〔３〕成分Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、ビキサフェン、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、シプロコナゾール、シプロジニル、ジフェノコナゾール、ジメトモルフ、ジチアノン、エポキシコナゾール、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルジオキソニル、フルモルフ、フルピコリド、フルキサピロキサド、フルオピラム、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、プロパモカルブ、プロピコナゾール、プロチオコナゾール、ピラクロストロビン、ピリモルフ、セダキサン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、バリフェナレート、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、前記〔１〕に記載の組成物。
〔４〕成分（Ａ）が、R^1がジフルオロメチルである式（Ｉ）の化合物である、前記〔１〕～〔３〕のいずれか一項に記載の組成物。
〔５〕成分（Ａ）が、R^1がトリフルオロメチルである式（Ｉ）の化合物である、前記〔１〕～〔３〕のいずれか一項に記載の組成物。

〔６〕成分（Ａ）が、R^1及びR^2がどちらもジフルオロメチルである式（Ｉ）の化合物である、前記〔１〕～〔３〕のいずれか一項に記載の組成物。
〔７〕成分（Ａ）が、R_1がトリフルオロメチルであり、且つR^2がメチルである式（Ｉ）の化合物である、前記〔１〕～〔３〕のいずれか一項に記載の組成物。
〔８〕成分（Ａ）が、１’－［２－（３－ジフルオロメチル－５－メチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサヒドロ－［４，４’］ビピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ（Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルモルフ、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、ピラクロストロビン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、前記〔１〕に記載の組成物。
〔９〕成分（Ａ）が、１’－［２－（３，５－ビス－ジフルオロメチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサヒドロ－［４，４’］ビピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ（Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルモルフ、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、ピラクロストロビン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、前記〔１〕に記載の組成物。
〔１０〕成分（Ａ）が、１’－［２－（５－シクロプロピル－３－ジフルオロメチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサ－ヒドロ－［４，４’］ビ－ピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ、（Ｂ）が、アシベンゾラル－Ｓ－メチル、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、クロロタロニル、銅、シアゾファミド、シモキサニル、ホスホン酸二ナトリウム、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルモルフ、フルピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、イソピラザム、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、メタラキシル、ピラクロストロビン、ソラテノール、トリフロキシストロビン、及び３－ジフルオロメチル－１－メチル－１Ｈ－ピラゾール－４－カルボン酸メトキシ－［１－メチル－２－（２，４，６－トリクロロフェニル）－エチル］－アミドから選択される殺真菌剤である、前記〔１〕に記載の組成物。
〔１１〕成分（Ａ）が、１’－［２－（５－シクロプロピル－３－ジフルオロメチル－ピラゾール－１－イル）－アセチル］－１’，２’，３’，４’，５’，６’－ヘキサ－ヒドロ－［４，４’］ビ－ピリジニル－２－カルボン酸（Ｒ）－（１，２，３，４－テトラヒドロナフタレン－１－イル）－アミドであり、且つ（Ｂ）が、アメトクトラジン、アミスルブロム、アゾキシストロビン、クロロタロニル、シモキサニル、ジメトモルフ、ジチアノン、ファモキサドン、フェンアミドン、フルアジナム、フルオピコリド、フォルペット、ホセチル－Ａｌ、イプロバリカルブ、マンコゼブ、マンジプロパミド、メフェノキサム、及びゾキサミドから選択される殺真菌剤である、前記〔１〕に記載の組成物。
〔１２〕（Ａ）対（Ｂ）の重量比が、１００：１～１：１０００、好ましくは１０：１～１：２００、さらにより好ましくは５：１～１：１００である、前記〔１〕に記載の組成

物。
〔１３〕植物病原体により起こる、有用な植物又はその種苗における疾病を制御する方法であって、前記有用な植物、その場所、又はその種苗に、前記〔１〕に記載の組成物を施用することを含む方法。
〔１４〕果実及び野菜及びジャガイモにおけるアルテルナリア（Ａｌｔｅｒｎａｒｉａ）属菌；ストロベリー、トマト、ヒマワリ、しゅく穀類、野菜、及びブドウにおけるボトリティス・シネレア（Ｂｏｔｒｙｔｉｓ　ｃｉｎｅｒｅａ）；ブドウにおけるプラスモパラ・ビチコラ（Ｐｌａｓｍｏｐａｒａ　ｖｉｔｉｃｏｌａ）；ヒマワリにおけるプラスモパラ・ハルステディイ（Ｐｌａｓｍｏｐａｒａ　ｈａｌｓｔｅｄｉｉ）；インパチェンスにおけるプラスモパラ・オブデュセンス（Ｐｌａｓｍｏｐａｒａ　ｏｂｄｕｃｅｎｓ）；ウリ科の植物、コショウ、トマト、ナス、サヤ豆及びライ豆におけるフィトフトラ・カプシシ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｃａｐｓｉｃｉ）；タマネギにおけるペロンスポラ・デストラクター（Ｐｅｒｏｎｓｐｏｒａ　ｄｅｓｔｒｕｃｔｏｒ）及びフィトフトラ・ポリ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｐｏｒｒｉ）、ジャガイモ及びトマトにおけるフィトフトラ・インフェスタンス（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｉｎｆｅｓｔａｎｓ）；ジャガイモにおけるフィトフトラ・エリトロセプチカ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｅｒｙｔｈｒｏｓｅｐｔｉｃａ）；メロンにおけるフィトフトラ・メロニス（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｍｅｌｏｎｉｓ）；アスパラガスにおけるフィトフトラ・メガスペルマ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｍｅｇａｓｐｅｒｍａ）；キャベツにおけるフィトフトラ・ブラシカエ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｂｒａｓｓｉｃａｅ）；アブラナ科及びナス科作物におけるフィトフトラ・パラシチカ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ　ｐａｒａｓｉｔｉｃａ）；マメ科植物の作物におけるペロノスポラ・ビシア（Ｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｖｉｃｉａ）；レタスにおけるブレミア・ラクツカエ（Ｂｒｅｍｉａ　ｌａｃｔｕｃａｅ）；キュウリ、ウリ科の植物；カボチャ、ヘチマ及びメロンにおけるシュードペロノスポラ・キュベンシス（Ｐｓｅｕｄｏｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｃｕｂｅｎｓｉｓ）及びバラにおけるペロノスポラ・スパルサ（Ｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｓｐａｒｓａ）；ホウレンソウ及びビートにおけるアルブゴ（Ａｌｂｕｇｏ）属菌；ビート及びマメ科作物におけるアファノマイセス・エウテイケス（Ａｐｈａｎｏｍｙｃｅｓ　ｅｕｔｅｉｃｈｅｓ）、ジャガイモ及び野菜作物におけるピシウム（Ｐｙｔｈｉｕｍ）属菌、ジャガイモ及び野菜におけるリゾクトニア・ソラニ（Ｒｈｉｚｏｃｔｏｎｉａ　ｓｏｌａｎｉ）、ブドウにおけるウンシヌラ・ネカトル（Ｕｎｃｉｎｕｌａ　ｎｅｃａｔｏｒ）、ホモプシス・ビチコラ（Ｐｈｏｍｏｐｓｉｓ　ｖｉｔｉｃｏｌａ）、エルシノエ・アンペリナ（Ｅｌｓｉｎｏｅ　ａｍｐｅｌｉｎａ）、シュードスペジクラ・トラケイフィラ（Ｐｓｅｕｄｏｓｐｅｚｉｃｕｌａ　ｔｒａｃｈｅｉｆｉｌａ）、グロメレラ・シングラータ（Ｇｌｏｍｅｒｅｌｌａ　ｃｉｎｇｕｌａｔａ）、ギグナルディア・ビドウェリ（Ｇｕｉｇｎａｒｄｉａ　ｂｉｄｗｅｌｌｉ）、ウリ科の植物におけるクラドスポリウム・ククメリヌム（Ｃｌａｄｏｓｐｏｒｉｕｍ　ｃｕｃｕｍｅｒｉｎｕｍ）、ジジメラ・ブリオニアエ（Ｄｉｄｙｍｅｌｌａ　ｂｒｙｏｎｉａｅ）、スファエロテカ・フリギネア（Ｓｐｈａｅｒｏｔｈｅｃａ　ｆｕｌｉｇｉｎｅａ）及びグロメレラ・ラゲナリウム（Ｇｌｏｍｅｒｅｌｌａ　ｌａｇｅｎａｒｉｕｍ）、ウリ科及びナス科の作物におけるレベイルラ・タウリカ（Ｌｅｖｅｉｌｌｕｌａ　ｔａｕｒｉｃａ）、果実及び野菜におけるフザリウム（Ｆｕｓａｒｉｕｍ）属菌を制御する方法であって、前記植物に、その場所に、又はその種苗に、前記〔１〕に記載の組成物を施用することを含む方法。
〔１５〕フィトフトラ（Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ）属菌、プラスモパラ・ビチコラ（Ｐｌａｓｍｏｐｏｒａ　ｖｉｔｉｃｏｌａ）、又はシュードペロノスポラ・キュベンシス（Ｐｓｅｕｄｏｐｅｒｏｎｏｓｐｏｒａ　ｃｕｂｅｎｓｉｓ）を制御する方法であって、手術又は療法によるヒト又は動物の体の治療方法及びヒト又は動物の体において実施される診断方法を除外し、有用な植物、その場所、又はその種苗に、式（Ｉ）の化合物



(I)

（式中、R^1はジフルオロメチル又はトリフルオロメチルであり、且つ、R^2は、メチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、又はシクロプロピルである）を含む組成物を施用することを含む方法。